

後川右岸流域 河川・砂防復旧技術検討委員会(第3回)

<議事要旨>

開催日時 :平成 29 年 10 月 18 日(水)10:00~12:00
開催場所 :第五博多偕成ビル 10F 会議室
出席者 :別紙1

【第1回~2回委員会の指摘事項】

○植林が 100 年前から実施されていることは良いが、流木発生量を算定において、福岡県人工林収穫予測林齢45年の値を使っているが、基本的な考え方を教えていただきたい。

【赤谷川流域における河川事業・砂防事業・地域の対策が連携した復旧の考え方(案)】

○土砂供給が多く、下流河川の土砂堆積に特に影響を与えるような渓流では不透過型となっているが、透過型も流木等で閉塞することもあるので、文章の工夫が必要である。

○施設整備が完了するまでの間で出水を受ける場合があるので、工事中の対応を検討しておく必要がある。

○様々な降雨パターンで施設計画を検討する必要がある。

○赤谷の上流のように河床勾配が急な箇所は河床を安定させるのは難しいので、勾配を変化させるのではなく横工等も検討すべきである。

○河道の縦断形状において、土砂移動の促進を図っているが、洗掘についての配慮も記載すべきである。

○土砂についての配慮事項はあるが、流木に対する配慮が少なく感じる。流木が流れた場合を想定した横断工作物の対応について、何らかのかたちで触れることができないか。

○一定の洪水であれば、河川の余裕高、構造令に基づいた橋梁の設置等の対応を実施するといった整理が必要ではないか。

○どのような現象が発生するか想定が難しく、順応的な対応が重要になるので、しっかり検討する必要がある。

- 順応的対応との記載があるが、完成後自治体が管理することとなるので、過度な負担とならないような工夫が必要である。
- 砂防施設は一気に全てできるわけではないので、地元住民が理解できるような設置順番の考え方を整理すべきである。

【目次(案)】

- 流域特性(降雨外力、谷底平野等)を記載する必要がある。
- 今回の水害からの教訓や学んだことを発信することが大切である。
- 「水害」を「水・土砂災害」と修正したほうがよい。
- 谷底平野、支川・本川で氾濫も重要であるが、小さな溪流や谷のリスクもあることを考えておく必要がある。
- 中小河川は水位の上昇スピードが早いので、情報提供の方法についても記載する必要がある。

以上

筑後川右岸流域 河川・砂防復旧技術検討委員会(第3回)
 <出席者名簿>

【委員(学識者等)】

秋山 壽一郎	九州工業大学 教授
小松 利光	九州大学 名誉教授
(欠席) 地頭菌 隆	鹿児島大学 農学系 教授
橋本 晴行	元 九州大学 教授
水野 秀明	九州大学大学院 農学研究院 准教授
安福 規之	九州大学大学院 工学研究院 教授
矢野 真一郎	九州大学大学院 工学研究院 教授
板垣 修	国土技術政策総合研究所 水害研究室長
萱場 祐一	国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センター 上席研究員
桜井 亘	国土技術政策総合研究所 砂防研究室長
澤野 久弥	国立研究開発法人 土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター水災害研究グループ長
諏訪 義雄	国土技術政策総合研究所 河川研究室長

【委員(行政)】

竹島 睦	九州地方整備局 河川部長
山本 巧	福岡県 県土整備部長
船橋 昇治	筑後川河川事務所長
鬼塚 明文	福岡県 朝倉県土整備事務所長

【オブザーバー】

(欠席) 後藤 利彦	大分県土木建築部 河川課長 ※(代理出席)土木建築部河川課 梅木防災調整監
中野 信哉	福岡県朝倉市 副市長
(欠席) 岩橋 忠助	福岡県東峰村 副村長※(代理出席)杉野主査
(欠席) 大塚 勇二	大分県日田市 副市長 ※(代理出席)山口土木建築部長

(敬称略)